

平成28年度第1回みきっ子未来応援協議会  
就学前教育・保育部会 次第

日時：平成28年8月10日（水）

午後7時～8時30分

場所：三木市役所5F 大会議室

1 開会

2 あいさつ

3 部会長あいさつ

4 協議事項

- (1) 三木市幼保一体化計画の見直しについて
  - ・待機児童を発生させない

5 その他

6 閉会

みきっ子未来応援協議会  
就学前教育・保育部会  
第1回資料

平成28年8月10日

三木市教育委員会

# 1 待機児童を発生させないための方策

## (1) 第1園区において0～2歳児の保育スペースの確保

### ① 現状と課題

- ア すべての園において、0～2歳児の入園希望数が増加
- イ 仕事の都合などで他園区から第1園区への園区を越えての就園が多い。
- ウ 既存の認定こども園では、現状が続けばスペース的に余裕がない。

### ② 対応策

- ア 第1園区全体にわたり、0～2歳児のスペース確保が必要
- イ 既存の認定こども園では対応できないため、0～2歳児を受け入れる新たな施設の設置が必要
- ウ しかしながら、将来的には0～2歳児が減少してくることも考慮に入れる必要



小規模保育施設を新たに設置する。

### ③ 小規模保育施設のメリット

- ア 0～2歳児の受入れに対応できる
- イ 将来の子どもの数の減少に応じ、施設を閉じることができる。

小規模保育施設とは、0～2歳児を対象とし市町村が認可する最大で22人（0歳児：4名、1歳児：6名、2歳児：12名と想定）就園可能な施設

#### ④ 整備する小規模保育施設の概要

- ア 整備する数 ⇒ 0～2歳児で、今後最大で90人程度のスペース確保のため、5か所（最大110名就園可能）の施設を平成29年度から設置する。
- イ 整備する場所 ⇒ 認定こども園との連携が必要なため、認定こども園に近接した場所に設置する。
- ウ 設置主体 ⇒ 三木市
- エ 運営主体 ⇒ 2歳までの保育終了後入園する園は、民間の認定こども園を想定しており、運営は民間で行う。

#### ⑤ 遊び場所や行事等課題の解決策

- ア 遊び場所 ⇒ 設置する場所の敷地や近隣の認定こども園の園庭、近くの公園等
- イ 行事参加 ⇒ 小規模保育施設の行事に加え、運営する認定こども園の行事に参加
- ウ 小規模施設での保育終了後の対応 ⇒ 小規模保育施設を運営する認定こども園への就園を原則とする。

## (2) 第1園区において4、5歳児の教育・保育スペースの確保

### ① 現状と課題

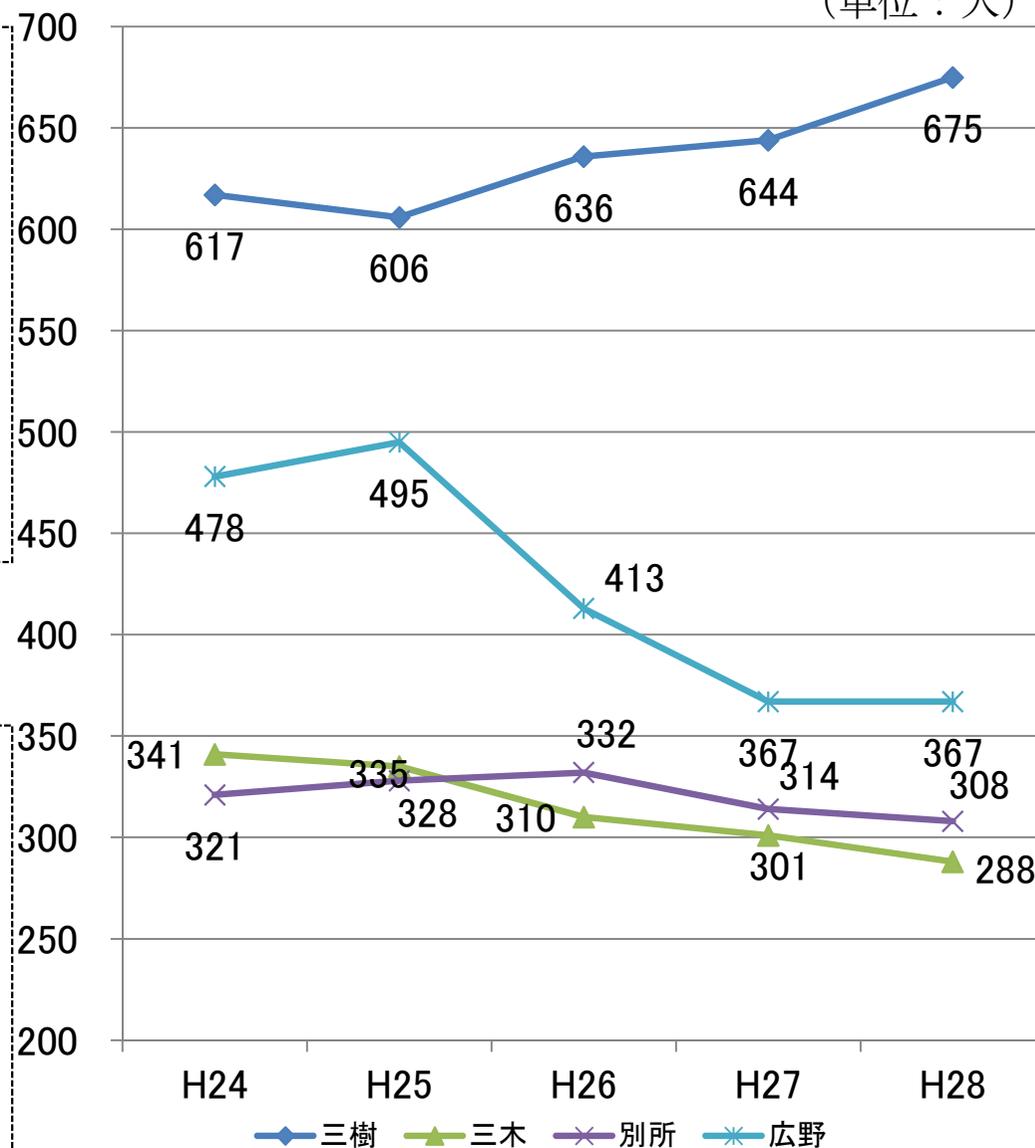
- ア 三樹幼稚園通園区において、0～5歳児が増加（右図参照）
- イ 三樹、三木幼稚園を計画通り平成30年度に閉園した場合、平成31年度以降に4、5歳児のスペースが不足
- ウ 児童の受入れにおいて、他園区から第1園区への就園希望が多い。

### ② 対応策

- ア 4、5歳児の教育・保育スペースの確保のため、幼稚園の閉園時期を延長することが必要
- イ ただし、将来は4、5歳児が減少することも考慮に入れる必要

年度別人口状況(0～5歳児)

(単位：人)



※ 人口は現在の幼稚園地域、別所地域の人数を表す

### ③ 幼稚園の閉園延期

- ア 4、5歳児で、今後最大それぞれ20人、26人の受入れ必要数の確保のため、1か所の園を閉園延長とする。
- イ 三樹幼稚園の通園区の児童数は増加しているものの、三木幼稚園及び広野幼稚園の通園区は減少していることを踏まえ、三樹幼稚園の閉園時期を延長する。
- ウ 閉園時期については、4、5歳児の保育スペースの余裕の見通しが立つ、平成35年度末とする。（当初計画：平成30年度末）



### (3) 第2園区において0、1歳児の保育スペースの確保

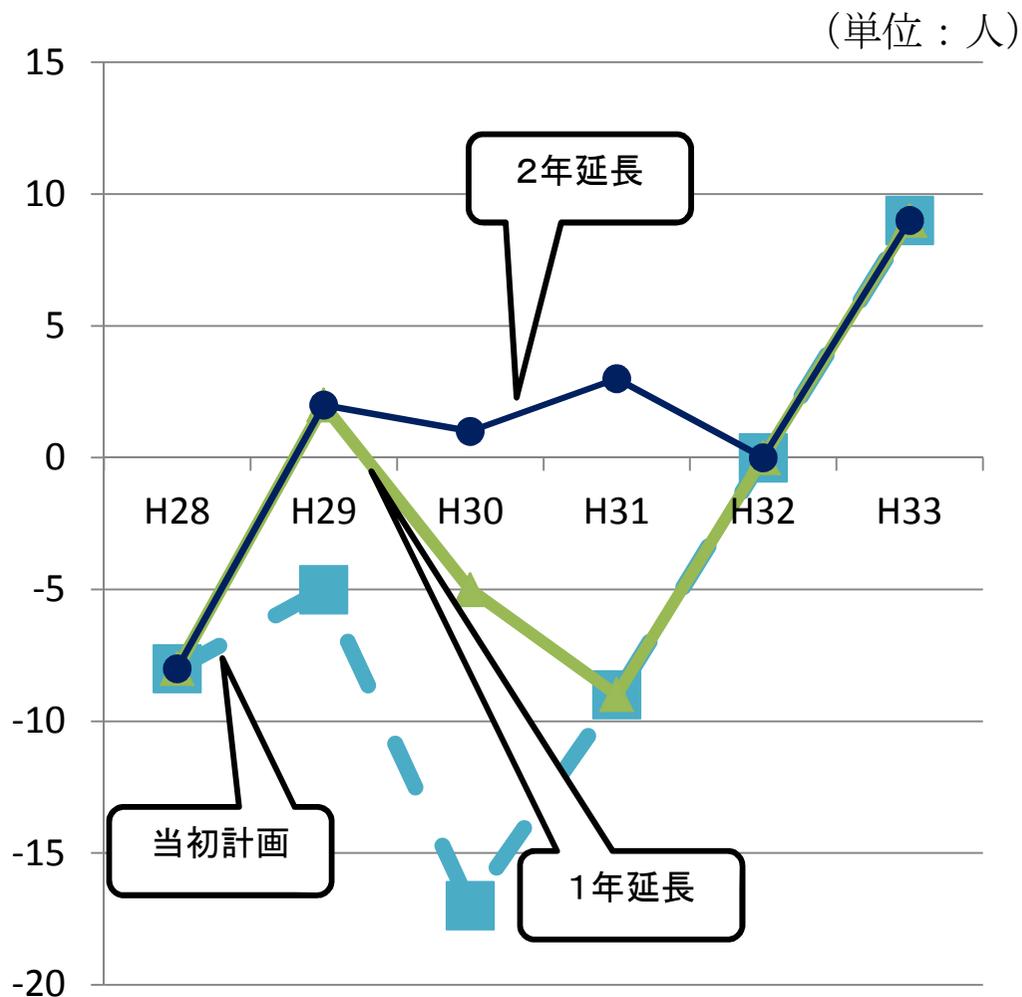
#### ① 現状と課題

- ア 0、1歳児の児童数は、計画より入園希望数が増加
- イ 0、1歳児については、既存の認定こども園での受入れスペースの余裕がない。
- ウ ただし、第2園区としては、園区を越えて第1園区への就園児童が多いことから、2歳児以上については保育スペースは確保できている。

#### ② 対応策

- ア 認定こども園の0、1歳児の受入れスペースには余裕がないためスペースの確保として公立保育所（志染保育所）の募集停止を延期することが必要
- イ しかしながら、将来は0、1歳児が減少することも考慮に入れる必要

志染保育所の0歳児募集停止の見直しと第2園区における0・1歳児の受入不足数・余裕数



### ③ 保育所の閉園延長の必要性

- ア 0、1歳児で今後最大17人の受入れ必要数の確保のため、志染保育所において、耐震工事の際に使用していたプレハブ園舎を活用し、これまで以上に0、1歳児を受け入れる。
- イ 志染保育所の0歳児募集停止については、当初計画（平成28年度募集停止）及び1年延長の平成29年度募集停止の場合、0、1歳児の受入れスペースの不足が発生するため、平成30年度まで募集停止を延長することとする。（前ページ図参照）
- ウ 志染保育所の閉園については、平成30年度に入園した0歳児が平成35年度末に卒園することから、平成35年度末まで延長する。（当初計画：平成33年度末）

#### (参考) 志染保育所の保育室活用計画

① 48.0㎡	② 60.0㎡		③ 60.0㎡		④ 30.0㎡	⑤ 30.0㎡		職員室		調理室
------------	------------	--	------------	--	------------	------------	--	-----	--	-----

①	2歳児	18名
②	4歳児	30名
③	3歳児	30名
④	0歳児	6名
⑤	1歳児	12名
⑥	5歳児	30名
	計	126名

0、1歳児の現在の受入れ人数13名（0歳児2名、1歳児11名）に対して、18名の就園が可能

⑥  
65.2㎡

## (4) 3歳児への対応

### ① 現状と課題

- ア 平成28年度における3歳児の就園率は、当初予測の94%を下回る82%にとどまっている。
- イ したがって、現状の就園率から考えれば、当初計画に示す平成30年度に100%となることは実態にそぐわない。
- ウ すなわち、3歳児においては、在家庭の割合が一定程度あることから、幼稚園が閉園する平成35年度までの3歳児の就園率を見直す必要がある。

### ② 対応策

- ア 3歳児においては、就園率を実態に合わせて90%、95%と段階的に引き上げていくこととする。
- イ 在家庭の3歳児については、認定こども園や幼稚園の園庭開放、児童センターや吉川児童館の取組などを通じ、4歳からの就園に向けて、人への基本的信頼感の形成や社会性の基礎を培っていく。